

意見交換会実施報告書

平成 30 年 12 月 19 日

登米市議会議長 及川 昌憲 様

第 3 班 代表者 及川 長太郎

1. 意見交換会の概要

開催日時		平成 30 年 10 月 18 日 午後 1 時 30 分 ～ 3 時 00 分
開催場所		中田農村環境改善センター
出席議員		代表者：及川長太郎 司会者：相澤 吉悦 報告者：及川長太郎、日下 俊 記録者：佐藤千賀子 及川 昌憲
参加市民数		24 人
実施内容	議会報告	・議会活動報告について ・財政状況について 30 年度一般会計予算及び当初予算の主なものについて ・常任委員会からの報告
	意見交換	・『登米市の地域医療を考える』 地域医療の現状と方向性を説明

2. 市民の質問・意見等

会場で回答したもの	質 問	(医療) 1. 議会の地域医療への取り組み姿勢が見えない。特別委員会を設けて議会全体で検討すべきではないか。 ⇒ 病院問題については担当の委員会だけでなく議会や議員全体で対応をしている。 2. 市民病院だよりを佐沼だけで配布しているが、全戸配布しないのか。 ⇒ 偏りが無いよう、病院に求めていく。 3. 「33年度までに、臨床研修病院の指定を目指す」としているが、指定要件である入院患者 3,000 人は達成できるのか。 ⇒ 3,000 人を達成しなければ、臨床研修病院の指定を受けられない。さらに、研修医の受け入れを 24 カ月続けなければならない。 現状では、研修医が来たくても来れない状況となっている。そこで、東北医科薬科大の学生が研修医となる 2 年後まで指定を受けることで、これらの研修医を受け入れたい考えが医療局にある。 4. 市民病院の研修指導医が 5 人は本当か。 ⇒ 事実である。 5. 累積欠損金 158 億円はどのように解消するのか。 29 年度、7 億 5 千万円の不良債務は返せるのか。また、30 年度の不良債務は増えているのか。 ⇒ 累積欠損金について、返せる目途はたっていない。 30 年度の不良債務は、年度途中のためわからない。 6. 県は登米市のために、どのような救急医療に関する支援を考えているのか。 ⇒ 教育民生常任委員会の調査で、県からは、「市の方向性が見えないので、支援の仕方が難しい」と言われている。
会場で回答していないもの	質 問	(医療) 1. 臨床研修医病院指定を受けるための努力をしているのか。 2. 平成 28 年に策定した病院の中長期計画を今年になって、議会として検証しているのか。 3. 病院主催で行った「地域医療を考える」のシンポジウムを聞いて、議会はどう思ったか。 4. 病院の集約とはどういう意味か。 5. 議員がバラバラの意見ではだめだ。特別委員会を設け、議会全体としてやらなければならないと思うが。 6. 院外処方を行っているが、それにより患者負担が一割増える。議会で院外処方を止める取り組みをしていかなければならないのではないか。

会場 で 回 答 し て い な い も の	質 問	7. 2年前に宮城県対がん協会会長が、地域の総合病院の院長を集めて会議を行った。その時3つの方法を提案された。その結果どうなったか。 8. 現在の病院事業管理者は前市長が任命した。どうして市長が変わったのに管理者はそのままなのか。今の事業管理者は何をしているのか。実績があるのなら、強引にでも医者連れてこられるのではないか。 9. 今後の病院運営をどの様にするのか。
	意 見	(医療) 1. 病院の現状に、議員は危機感を持っていないのではないか。 2. 仙台の評判のいい病院でさえ、より良い病院にするために患者に病院に対する要望をヒヤリングしている。市民病院こそ、真摯に意見を聞かなければならない。 3. 県健康保険協会、社会保険協会での市立病院のトラブル、改善命令、差し戻しの件数を調べれば、医師、薬剤師、看護師、事業管理者の評価がわかる。 4. 病院のあり方について、合併時に何も決めてこなかったことが、現状の要因。苦しいながらも懸命に努力中であり、今日のような意見を持ちながら、市医療局に協力してほしい。
	要 望	1. 窓口の対応が良くない。改善を希望する。
	その他 特記事項	